

きらり 通信

平成27年2月26日(木)発行 第20号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp>

教育相談に携わって思うこと

学校長 菊地 恵美子

平成6年度から5年間「県養護教育センター(郡山市)」に勤務して教育相談に携わってきました。この時期は、まだ特別支援学校が地域支援を行っていませんでしたから、実に様々な内容の相談が多数寄せられました。そんな中、他県から両親と対象の男児(幼児)、妹の4人で、月1回新幹線や父親の自家用車で相談に見えられていたケースから学んだことの一部を紹介します。

対象の男児は、落ち着きがなく言葉の遅れもあることから、「LD?ADHD?」と心配されて来所しました。相談は数年にわたりましたが、私が転勤した後困らないように居住地の医療機関や相談機関とのつながりももっていただきました。この男児は平成26年3月に大学を卒業して、今はサラリーマンをしています。勤め先の上司に複数の指示をされたとき「自分は一度に色々な事をするのが苦手なので、一つずつしてもいいですか。」と話すなど、自分の特性をきちんと伝えることで失敗を回避して仕事ができているとのこと。相談中の様々なエピソードを含め、このケースからは

- *保護者が気付いたらすぐ(早期から)、どんなことでも相談できる相手となる(年齢や障害の有無等を選ばない)
- *「こんなこと相談したら…」と保護者が躊躇するような内容にこそヒントがある(見逃さない)
- *「この子がこれから生きていく力を何が何でも付ける」という強い気持ちと将来の展望を保護者と共有する(子供自身も自分の特性が理解できるようになり、困った時にどうしたらよいかを工夫して対応できるようになる)

など、多くの事を学びました。

教育相談を受けた側が全て解決できるわけではありません。保護者や家族、本人が様々なことに気付き、悩みながら解決し、生きていく手助けをするに過ぎません。教育相談に携わってきた中でそんなことを強く思われました。



地域支援センター「きらり」～今年度もありがとうございました～

今年度も地域支援センター「きらり」の活動にご協力とご理解をいただきまして、本当にありがとうございました。地域支援センター「きらり」では、よりよい指導や支援を一緒に考える相談、特別支援教育に関する研修への協力などを行っています。また、関係する方々との連携にも努めています。

次年度も子どもたちが笑顔で自分らしく過ごせるように、保護者の方々、先生方、関係者や関係機関の方々と一緒に取り組んでいきたいと考えています。よろしくお願いいたします。(文責 大竹)



▲授業公開



▲実践講座「授業のユニバーサルデザイン」



▲「きらり」の部屋

一緒に考えて
いきましょう。



一人でできる作業学習の工夫 ～アイロンビーズの製品作りの紹介～

中学部の作業学習では、アイロンビーズでの製品作りに取り組んでいます。デザインを考えながら、コースターやオーナメント、マグネットの飾りなどを作っています。「一人でできる」ことを目指し、生徒に合わせて作り方を工夫しながら取り組んでいます。今回は、そのひとつを紹介します。

- ① 牛乳パックを5個つなげた箱に、ビーズを1個ずつ入れておきます。生徒は「左から右へ」順番にビーズを取って、竹ひごに通していきます。
- ② 牛乳パックを5個つなげた箱は4箱準備しておきます。4箱分のビーズを全部通すと、1本完成です。
- ③ 1本完成させるごとに教師に「できました。」と伝え、次の竹ひごを受け取ります。
- ④ 竹ひごを20本組み合わせると、1枚のコースターが完成します。



①「左から右へ」の順番でビーズを1個ずつ、竹ひごに入れます。



②牛乳パックをつなげた箱は、4箱、1箱ずつ順番に進めます。



このような工夫により、どのような活動を、どのくらい続けられれば完成するのか見通しを持つことができます。作業学習の目的のひとつである、自分の力で取り組んで、できたという達成感を得ることはもちろん、できたことを教師に伝えて称賛を受けることで、自信や次の活動への意欲も生まれます。作業学習は、適切なコミュニケーションを学ぶよい機会にもなっています。(文責 齋藤)



③20個のビーズを通して、1本完成。「できました。」と報告します。



④20本の竹ひごを組み合わせて出来上がり!



☆きらりちゃん日記☆



子どもたちが取り組む前に「こうするよ」と言ったり、まわりが先にしたりするともあります。子どもたちが力を発揮できるように「見守る」ことも大切な支援の1つですね。(大竹)

本の紹介

今回はマンガの特集です。春休みにいかがですか？

『SLAM DUNK』の作者による、車いすバスケットのお話です。登場人物の気持ちが丁寧に描かれていて、とてもおもしろい作品です。



(紹介者：大竹)

聴覚障がいの女の子が主人公です。クラスメイトや家族一人ひとりの内面にまで踏み込んで描かれていて、読みごたえがあります。



(紹介者：桑原)

聴覚障がい児への「その子に合った方法(適性教育)」を推進した教育



者、高橋潔氏の物語です。熱い思いと温かい愛情が溢れています。

(紹介者：松木)

自閉症に生まれた光くんの成長、家族の苦悩と喜び、周囲の人々との関係等がとても丁寧に描かれています。ドラマ化もされた作品です。



(紹介者：深松)